

平成22年度 青森県森林病虫害等防除活動支援体制整備促進事業

青森県森林病虫害等 防除センターだより

No 35

2011.1



ナラ枯れ被害木(ミズナラ) 被害発生地/深浦町大間越地内 [H22.10.20撮影]

青森県森林病虫害等防除センター

県内初、ナラ枯れ被害

平成22年12月10日、県は深浦町大間越地区のミズナラ2本に、ナラ枯れの被害が発生したと発表した。詳細は次のとおりである。(記者会見資料から)

※ナラ枯れ被害の原因については、当防除センターだよりNo31号を参照。

深浦町大間越地区における ナラ枯れ被害の状況について

1 経緯

(1) 平成22年10月13日

(地独) 青森県産業技術センター林業研究所から林政課へ深浦町大間越地区内に設置したトラップ調査でカシノナガキクイムシ(♂3頭、♀3頭)が分離・同定された旨の報告。

(2) 平成22年10月20日

林政課及び林業研究所の職員がカシノナガキクイムシ捕獲場所周辺を調査したところ、ナラ枯れの疑いのある異常木2本を確認。

(3) 平成22年11月4日

ナラ枯れの疑いがある異常木について、鑑定のため伐倒後に輪切りにした材片を採取し、11月5日に(独)森林総合研究所に送付。

材片採取後、ナラ枯れの疑いのある異常木は、くん蒸処理。

(4) 平成22年12月8日

(独) 森林総合研究所から12月6日付けで送付された試験成績書(ナラ菌が検出された旨)を受理。



大間越地区内に設置したトラップで捕獲されたカシノナガキクイムシ 左・雄 右・雌
(写真提供：青森県産業技術センター 林業研究所)



被害木から出たカシノナガキクイムシの幼虫
(写真提供：青森県産業技術センター 林業研究所)

2 被害の状況

- (1) 被害発生場所：西津軽郡深浦町大字大間越字寛 地内
- (2) 被害本数等：ミズナラ 2本（うち1本は根元から4本に分岐）
樹 齢：70年
胸高直径：16～38cm
樹 高：12～17m、材積：4 m³
- (3) 森林の状況：被害を受けた森林は私有林で、ほとんどが広葉樹で構成されている。



被害木を伐採



被害木からの材片採取

森林病虫害等防除対策調査

平成22年11月8～9日、青森県と当防除センターとの共催で標記調査が北海道函館市、福島町で開催された。調査には県、森林組合職員11人が参加した。

調査は北海道渡島総合振興局 東部森林室森林整備課 係長 田中 高一氏が「トドマツオオアブラムシ駆除について」、北海道福島町森林組合 業務課長 笈川 和明氏が「福島町内エゾシカにおけるトドマツ被害状況と対策について」説明した。その一部を紹介する。

トドマツオオアブラムシ駆除について

①トドマツオオアブラムシについて

加害樹種：トドマツなどモミ類

特 徴：最大長約3mm。体は緑色又は黒色で淡色の斑点がある。

幼木の、幹や枝に寄生する。寄生部位は通常、土や木くずで覆われ、中にアブラムシとアリがみられる。

生 態：年5～6世代。卵越冬。春から秋まで吸汁加害し、世代を繰り返す。トビイロケアリなどアリ類が土などでアブラムシの隠れ家（土蔭^{どきょう}）を作り保護する。トドマツを造林すればどこにでも発生するといわれている。しばしば多発し、木を枯らす。

②被害状況と駆除作業について

最近は大きな被害報告はないが、平成16年度に大きな被害があり、駆除作業が実施された。

駆除方法はジメトエート粒剤を1本当たり40g根元に散布。

その薬剤の成分が根から吸収され樹体に広がり吸汁することによって、アブラムシが死ぬことになる。

現在は15年生の立派なトドマツ林を形成している。



トドマツオオアブラムシ被害跡地（函館市）

福島町内エゾシカにおけるトドマツ被害状況と対策について

①エゾシカ被害について

福島町内のエゾシカ生息数は未確認だが、北海道内ではおおよそ64万頭が生息しているといわれている。町内では数十個のグループが存在していると推定され、春から秋にかけて人家近くに出てきて農作物を菜食し冬期は越冬地へ移動している。

そのため、春から秋にかけて農地以外では、造林地のミズナラ、ブナ、アオダモなどの葉を菜食し、生え代わりの角の毛をとるためトドマツへの角こすりによる剥皮や樹皮菜食・踏み付けによる樹木枯死など山林への被害が発生している。越冬時においても福島町から出ない群れもあり針葉樹林の中は積雪が少なく歩きやすいことから林内に残り樹皮菜食や時折、民家の垣根やオンコの葉などを食し冬期の被害も目に余るものがある。

被害報告がなされない事もあるが、所有者が意識し被害額の算定作業を行えば数百万単位の被害金額になることが予想される。又、ここ数年に至っては、日中でも容易に群れを目にすることが出来るようになり個体数が増加したのか、人馴れしたエゾシカが増えたのか不明。



エゾシカによるトドマツ被害状況説明（福島町）

②被害と捕獲作業について

(1)被害面積

広葉樹の食害 9 ha

トドマツの角とぎ 120 ha

(2)従来講じてきた被害防止対策

1)捕獲等に関する取り組み

- ・エゾシカ被害防止緊急捕獲事業の実施による銃器による有害捕獲（個体数調整）
- ・罠による個体数の調整
- ・防護柵の設置等一部の農家で、自己所有地周囲に電気柵が設置されている。

2)問題点

- ・狩猟期間、保護区の規制、人員の不足。越冬時捕獲が困難な事やエゾシカの年間を通した全体を把握出来ていない。効果を把握しにくい。
- ・冬期の管理に人手や経費がかかる。
- ・農地の対応は容易であるが山林はきわめて難しい財政的に困難。

(3)今後の取組方針

1. 越冬地における効果的な捕獲方法
2. 銃器以外にも捕獲方法を検討
3. 生息状況及び被害実態の調査、把握を行う
4. その他必要な被害防止対策を検討及び実施



● 発 行 ●

青森県森林病害虫等防除センター

青森市松原一丁目16番25号 青森県森林組合連合会内

TEL 017-723-2657 FAX 017-723-1505

<http://www.aomori-pfau.or.jp/>